

平成 2 3 年

第 5 回仙北市議会臨時会

市 政 報 告

仙 北 市

平成23年第5回仙北市議会臨時会を招集いたしましたところ、議員の皆様には、ご出席を賜り誠にありがとうございます。

はじめに、6月23日深夜から24日未明に発生した豪雨災害の被害状況について報告します。

住宅等の被害は、床上浸水3件、床下浸水21件、非住家の浸水32棟です。

建設部関係では、河川護岸決壊等19箇所、道路法面崩落・路肩決壊等19箇所のほか、西木地区の桧木内川河川公園と角館地区の桧木内川桜並木公園の2箇所が冠水しました。河川4箇所は公共土木施設災害復旧事業として国に申請しています。また、河川公園については、8月には戸沢氏祭の開催や桧木内川の鮎釣りシーズンとなることから応急対応により仮復旧に努めています。

農林部関係では、7月8日現在で、農作物の被害が、水稻、大豆、ソラマメ、花卉等の浸水、冠水が108.24haとなっています。

農地・農業用施設では、水田の土砂堆積や畦畔欠損90箇所、農道5箇所、頭首工8箇所、水路29箇所の計132箇所で被害が発生しています。

林業関係では、林道の被害が補助災害に該当するのが3路線7箇所、単独分が52路線となっています。

なお、農林部が行う被災調査は終了していますが、今後さらに農地、山林所有者、水路等の管理者より申し出や報告があった場合は調査の上対応します。

このところ、日本各地で地震や大雨などによる自然災害が多発しています。今後も災害に備え、危機管理の更なる充実強化に努めます。

#### ◇福島県の被災者の受入れについて

東日本大震災の被災者の受入れについては、宮城県女川町をはじめとして200名以上の受入れを行ってきましたが、仮設住宅への入居も進められており、少しずつ減少している現況です。

こうした中で、秋田県では、福島県の児童・生徒が東日本大震災や福島第一原子力発電所の事故により、不自由な日常生活を余儀なくされていることから、秋田県内の自然環境の中で夏休み期間を過ごしてもらうため、福島県の児童・生徒の夏休み期間の受入を行うこととしました。

受入れ期間は7月20日から8月31日までとし、児童・生徒が10人以上とその保護者の団体で、地域での体験サポートメニューも予定されています。

支援本部では、7月7日、観光協会等の関係機関と受入れについての打合せ会を開催し、本市においても積極的に受入れに応じることとし、宿泊可能なホテル・旅館の確認や体験活動の役割分担等を協議しました。また、このプログラム以外の福島県からの被災者についても支援本部を通じて受入れることにしています。

#### **◇協働によるまちづくり基本条例（仮称）（案）の説明会について**

「協働によるまちづくり基本条例（仮称）」（案）についての住民説明会を6月23日から7月8日まで市内9箇所で開催しました。

参加者は47人と少ない状況でしたが、いろいろなご意見をいただきましたので整理検討後、より多くの市民の方から意見を求めるパブリックコメント（意見募集）を7月20日から8月3日まで行うことにしています。広報並びに仙北市ホームページに掲載して周知を図り市民の意見を反映させた条例案にしたいと考えています。

なお、市と市民の協働の役割を担う「地域運営体」については、8地域で設立されていますが、残る角館地域について、各町内会長さんや代表者の方にお集まりいただき、地域運営体の趣旨をご理解いただく説明会を、7月21日（木）に角館交流センターで開催します。運営体設立に向けて契機になればと考えています。

#### **◇秋田内陸線について**

6月29日、秋田内陸縦貫鉄道株式会社の定時株主総会に出席し

ました。昨年2月の、秋田内陸縦貫鉄道株式会社、秋田県及び北秋田市との四者合意に基づき、平成24年度までに経常損失額2億円以内を目指す経営改善に取り組んでいるところです。

しかしながら、昨年度実績は、輸送人員が開業以来最低の41万人台に減少し、経常損失額も昨年度を700万円ほど上回る2億5,753万円に拡大する厳しい結果となりました。

私も経営に携わる者の一人として、責任を痛感しています。目標を達成できない要因は生活利用の減少に加え、増加傾向にあった観光利用の激減などが考えられますが、現状に至った要因を私なりに掘り下げ、思いを巡らせば、利用者などからいただいた内陸縦貫鉄道に対する意見や要望・提案に丁寧に応えることができていないこと、様々な催事列車やイベントなどの企画力や情報を発信する機能が不足していること、営業活動を展開するマンパワーの育成を疎かにしてきたことなど、幾つもの反省点があります。

昨日も北秋田市の津谷市長とお話しをする機会がありました。内陸縦貫鉄道が走る沿線市として、これまでにない危機感を持ってあたらなければいけないことを確認し合いました。四者合意では、目標を達成できない場合は経営の抜本的な見直しを行うことにしています。そのような事態となることを座して待つのではなく、できるだけ近日中に四者が集まり、この年度内の対策を中心に、具体的な手法を協議したいと考えています。

根本課題の解決議論は続けながらも、今、最優先で取り組むべきは利活用促進策です。特に観光客回復に向け、10月から3ヶ月間にわたって展開されるJR東日本重点販売地域に本県が指定されていることから、この好機を逃すことなく、観光振興策と合わせて重点的に取り組むほか、会社では地域住民と改めて存続に向けた熱意を共有し行動を具体的に起こすため、仙北市内2箇所を含む沿線6箇所で地域懇談会の開催も開始しています。

### ◇第三セクターの経営改善について

市が50%以上出資する第三セクターのうち、花葉館、西木村総合公社、アロマ田沢湖、西宮家の4社について、経営状況の総点検を行うため、7月1日から経営コンサルタントによる経営診断に着手しました。コンサルタントには、指定管理料の見直しを含む経営改善策のほか、第三セクターの新たな役割の可能性についても提案していただきます。

コンサルタントからの提案を踏まえ、本市における第三セクターの今後のあり方を早期に検討し、議員の皆様からのご審議いただくべく準備を進めていきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

### ◇「クニマス発見記念フォーラム」の開催について

さかなクン講演会に続く第2弾として、「クニマス発見記念フォーラム」を7月30日仙北市民会館で開催します。

今回は、クニマスの生息を確認した京都大学総合博物館中坊徹次教授をお招きし、クニマスの生態についての基調講演のほか、第2部では、作家の西木正明さんと塩野米松さん、漫画家の矢口高雄さん、丸木舟の会会長の三浦久さん、秋田魁新報社報道部記者の小松嘉和さん、秋田県立大学客員教授の杉山秀樹さんといった田沢湖やクニマスに縁のある方々によるパネルディスカッションを行います。今回のフォーラムを通じ、多くの方々に田沢湖やクニマスへの関心が高まることに期待をしています。

### ◇北投石が結ぶ温泉提携の調印式について

議会の皆様には、本市玉川温泉と台湾台北市にある北投温泉の温泉提携協定に関して、3月11日に発生した東日本大震災への対応などから延期したい旨をご報告してきましたが、この度、関係機関との再調整が叶い、調印の運びとすることができました。調印は現在のところ8月19日、場所は台北市庁舎を予定しています。世界中で二箇所、北投石の産地と言われる本市の玉川温泉と台湾の北投

温泉が、北投石を軸とした温泉提携協定を結ぶことで、相互の理解と友好関係がさらに深まればと考えています。また大震災後に激減した台湾からの観光客を呼び戻す起爆剤となることも期待しています。本協定を締結するためにご尽力をいただいた各関係機関に、この場をお借りして感謝を申し上げます。

### ◇光ブロードバンド基盤整備事業について

田沢湖高原地区等の光ブロードバンド基盤整備事業について、公募型プロポーザル方式により整備運営事業者を募集したところ、NTT秋田支店一社から応募がありました。

7月4日、民間有識者と市職員による整備運営事業者選定委員会を開催し、提案内容の審査を行いました。選定委員会からは、NTT秋田支店の提案内容を評価する旨の審査結果の報告を受けており、今後、同社との契約締結に向けて手続きを進めています。事業の完成時期は積雪前の11月下旬を予定しています。

整備後はNTTに対しIRU（破棄し得ない使用权）方式で財産を貸付け、住民・企業へのブロードバンドサービスが提供されることとなります。

なお、整備事業費が決定しだい、財産の貸付料、管理費用などの関連予算を議会にお諮りしたいと考えています。

### ◇地上デジタル難視聴整備事業について

平成22年度から繰越された自主共聴11組合の地デジ共聴施設は、7月9日までに全て完成し、地デジ放送の受信が可能となりました。

本年度実施の2組合は、アナログ停波まで施設整備が間に合わないことから、衛星により地デジ放送を受信できる体制となっています。

アナログ停波が直前に迫っていることから、65歳以上の一人世帯及び二人世帯に対しては電話により対応状況を伺い、未対応世帯へはアナログ停波の告知と地デジ放送受信への早急な対応をお願いしています。

## ◇県指定保安林について

昨年、県内の一部市町で本来固定資産税が非課税となる「県指定保安林」について誤って課税されていた事案があったことから、本市における本事案の有無について秋田県の協力を得ながら精査しました。

この結果、昭和24年から平成19年までに県指定となった山林計61筆（昭和24年9筆、26年43筆、31年1筆、平成5年2筆、19年6筆／地区別では西木54筆、田沢湖6筆、角館1筆）約70ヘクタールで同様の事案が58件あることが確認されたため、該当者47名に事情説明のうえ過去10年度分の固定資産税相当額126万6,100円と還付加算金等11万300円を順次還付しています。

この原因は、当該土地の登記地目が、保安林に地目変更されていなかったことや関係部署との連携が十分でなかったことによるものです。

関係者の皆様にお詫び申しあげますとともに、今後は関係機関や関係部署間の連携と情報共有の徹底を図り適切な事務遂行に努めます。

## ◇仙北市消防訓練大会について

7月3日に「田沢湖カントリーエレベーター（JA秋田おぼこ）」を会場に、仙北市消防訓練大会を開催しました。

「小型ポンプ操法の部」と「規律訓練の部」が行われ「小型ポンプ操法の部」では、優勝 第8分団1班、準優勝 第5分団3班、第3位 第1分団2班でした。

また、「規律訓練の部」では、優勝 第9分団、準優勝 第3分団、第3位 第1分団でした。

この入賞6チームは、7月16日開催の「秋田県消防協会大仙市・仙北市・美郷町支部消防訓練大会」に出場しますので、日頃の訓練の成果を十分に発揮し、好成績を収められて、全県大会出場を果たしていただきたいと願っています。

### ◇稲の生育状況について

春先の天候不順により稲の生育状況が心配されましたが、6月に入り好天が続いたことから生育の遅れは平年に比べ2～3日程度まで回復しています。

6月24日現在の生育状況は、あきたこまちで草丈が平年の87%、莖数が同75%となっています。特に田植えの遅かったほ場では、生育の遅れが心配され、生育状況に応じた栽培管理を徹底する等JAや関係機関と啓発に努めます。

また、一ヶ月予報では、曇りや気温の高い日が多いとの予報が出ていることから、イモチ病やカメムシの多発が予想されます。関係機関と連絡を密にし、防除が徹底出来るよう併せて啓発に努めます。

### ◇農業者戸別所得補償制度について

本年度から本格実施した農業者戸別所得補償制度について、6月30日をもって交付申請書の受付を終了しました。申請状況は、申請件数2,089件、うち集落営農組織13件、法人8件、個人2,063件で、現在仙北市地域農業再生協議会により申請漏れのないよう調査を行っています。

今後作付状況や出荷状況などを確認した上で、それぞれの交付の対象となる場合に国から交付対象の面積が通知され、米の所得補償交付金、水田活用の所得補償交付金が年内に交付されます。

営農継続支払いについては、9月頃に交付される予定です。

### ◇田沢湖・角館観光連盟の設立について

平成23年6月25日にたざわこ芸術村において、社団法人田沢湖観光協会、一般社団法人角館町観光協会、西木観光協会から選出されました代議員23人の出席をいただき、田沢湖・角館観光連盟設立総会が開催され全会一致で連盟が設立されました。

観光連盟には、有機的・広域的な連携を図り、観光の宣伝及び情報提供を行うことにより、観光事業の健全な振興を促し、仙北市観

光発展に資するとともに、併せて仙北市の産業経済の進展に寄与するものと期待しております。

この観光連盟の要望及び活動に対し、連携事業費の補正予算を今臨時会に計上しています。ご審議をよろしく申し上げます。

#### ◇プレミアム付き商品券追加発行事業について

先の6月8日発売の「仙北市げんき商品券」は、好調な売れ行きを見せ、販売開始2日目で8割の販売実績となり、消費者並びに発行元の仙北市商工会からも、強く追加販売の要望が出されています。

冷え込みが続く不況下、子育て世帯への何らかの経済対策が必要と考えていた時期でもあり、商工会と連携し、子育て支援につなげる施策として、従前の10パーセントプレミアムに加え、0歳から中学校在学までの市内子育て世帯を対象に、さらに5パーセント上乘せした「子育てげんき商品券」を計画しました。このプレミアム付き商品券は、一般の販売に先行して1世帯2セット限定ですが、多くの皆さんからご購入いただき、市内経済対策と子育て支援策を併せた効果を期待しています。

関連の補正予算を今臨時会へ計上しています。ご審議をよろしくお願いいたします。

#### ◇雇用状況等について

5月のハローワーク角館管内の有効求人倍率は0.24倍と、前月比0.02ポイントの減、対前年比では0.02ポイントの減となっております。震災後の雇用情勢は改善の動きが鈍く、依然として厳しい状況となっております。

こうした状況を踏まえ引き続き雇用の推進を図るため、ハローワークの協力をいただきながら、求人情報の提供に努めるほか、県の緊急雇用創出臨時対策基金事業等を活用し、雇用機会の創出と雇用の確保に取り組んでいきます。

新規高卒求人受理が6月20日よりスタートしています。ハロー

ワーク大曲管内（ハローワーク角館も含みます）の平成24年3月高校卒業予定者の求職動向によると、就職希望者388人のうち県内就職希望者は254人で、県内就職希望率は65.5%となっています。優秀な人材が一人でも多く地元企業で活躍できるよう、また、企業及び地域の活性化を図るためにも、ハローワークや仙北市企業等連絡協議会等と連携しながら就労支援に取り組んでいきます。なお、6月30日には地元就職の促進を図る目的で、仙北郡内の高校3年生を対象とした仙北市内事業所視察会を開催しました。

以上、主要事項並びに諸般の報告を申し上げます。

今臨時会で審議をお願いする案件は、専決処分の承認1件、補正予算1件の計2件です。

慎重審議の上、全議案についてご可決賜りますようお願い申し上げます、市政報告とします。